ちゃんこ鍋

6の2 学級通信 No.5 H9.4月.11

さっそく 反応あり 好感色 今年の君たち！！

◇この「ちゃんこ鍋」に、すぐにこたえてくれた人たちがいました。ここからも君たちの「やる気」を感じます。今年は一味違うな!!

ぼくは今日の「ちゃんこなべ」をよんで日記を毎日書き続けるとどんな力がつくのかを自分なりに考えてみました。だけど(どれだけ)考えても**どんな力**がつくのかわかりませんでした。去年は日記がいやでいやでめんどくさかったです。だけど先生が「努力」をすれば力になるといっていたのでことしは日記をがんばってみたいと思います。つづけていくうちにどんな力がつくかわかると思うのでがんばりたいです。

〈Y.T くん〉

◇悠君、とにかく、がんばって続け、どんな力がつくのかを発見してね。そして、そのことを報告してください。他の人もこのことについて思ったことがあれば、日記で教えて下さい。

発見シリーズ2 世阿弥について

ぜあみ【世阿弥、是阿弥】室町初期の能役者・能作者・大和猿楽結崎(ゆうざき)座(後の観世座)二代目の大夫・幼名、藤若。通称、三郎、名は元清。父観阿弥の通称観世(かんぜ)の名でも呼ばれ、法名は世阿弥陀化(世阿弥・世阿)。晩年至翁・菩芳。足利義満の庇護を受け、ついで鑑賞眼の高い足利義満の意にかなうよう、能を優雅なものに洗練すると共た、これに芸術論の基礎を与えた。十六部集に含まれる「風姿花伝」「花鏡」ほか多くの著作き残し、夢幻能形式を完成させ・「老松」「高砂」「清経」「実盛」「井筒」「檜垣」「砧」「融(とおる)」など多くの能を作り、詩劇を創造した。(1363?〜1443?) ーじゅうろくぶしょう【世阿弥十六部集】ジフシフ

〈T.O さん〉
〈K.N くん〉

今日、学級通信でぜあみのことがあったので調べてみました。

【世阿弥】(ぜあみ) 室町時代

父の観阿弥の子で 文化人 1363ごろ〜1443ごろ

世阿弥は「熊野(ゆや)」「三井寺(みいでら)」などの謡曲の名作をたくさん作ったそうです。本名は、元清(もときよ)

また、能についての本「花伝書」なども書いて能を完成しました。この本は、この時から能の教科書として長くつたわたそうです。将軍よしみつの保護をうけ、すぐれた能楽師をめざしました。それと『初心忘るべからず』(最初の気持ちを忘れずゆだんするな)は、世阿弥の言葉です。よしみつにも保ごされているということは、そうとうおどりがうまかったんだなと思いました。

◇智子さんは「広辞苑」で調べたそうです。(あの厚い辞書だよ)

健吾くんの調べた中にあるけど、「初心忘るべからず」とは、世阿弥の言葉なのだね!!

※晴耶さんもさっそく家の人に世阿弥のことを聞いたそうです。

◎今日、提出された日記は、22冊!! 全員です! すばらしい。しつこいようだけど、一人が欠けることなく……